
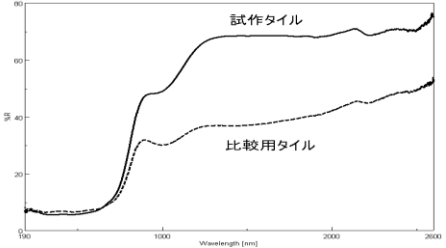


近赤外線反射型の遮熱タイルで施工表面の温度上昇を抑制

赤外線反射型機能性無機粒子の開発

技術分野分類 5402：無機材料・物性
 技術キーワード C：表面・界面物性
 産業分類 E-21：窯業・土石製品製造

多治見市陶磁器意匠研究所

内 容	概要	太陽光に含まれる近赤外線域の光を効率よく反射もしくは透過する粒子を利用し、遮熱機能を持つ建材等に应用することを目的とする。具体的には、地場産業である陶磁器タイルにこの技術を応用し、近赤外線反射型タイルの開発を行った。	
	従来技術・ 競争技術 との比較 (優位性)	既存の設備、原料、技法を利用して一般的な施釉タイルと同じ手法で製造が可能な上、赤外線の反射率が向上するため、日射反射率も向上し、温まりにくくなる。	
	本技術の 有用性	建築物の外壁に用いることにより、太陽光による温度上昇を抑えることができ、夏には冷暖房等のエネルギー消費を抑えることができる。	
関連情報 (図・表・写真等)	 <p>実証実験風景 (パネル作成：(株)アイトリョウ)</p>	 <p>実験に使用したタイル表面（光沢釉）の 分光反射率 (実線：試作タイル 破線：比較用タイル)</p>	
適用可能製品	建築物外壁用の遮熱タイル		
技術 シーズ 保有者	氏名 所属・役職	多治見市陶磁器意匠研究所	
技術 シーズ 照会先	窓口 TEL/FAX e-mail	多治見市陶磁器意匠研究所 研究・支援グループ 0572-22-4731 / 0572-25-0983 ishoken@city.tajimi.gifu.jp	

■知的財産

■試作品状況

無 提示可 提供可

作成日 2011年10月25日